# 障がいがある人もない人も地域でつながる コミュニティカフェと作業所の創設

## 取組に至る背景・事業の目的

泰阜村は子供と地域住民を繋ぐ交流の場や機会が少ない。全国的に増えているこどもカフェは都市群に集中しており、田舎では必要とする子供がいてもこどもカフェがない地域が多数あり、泰阜村も例外ではない。一方で、泰阜村には障がいのある人が働いたり、過ごせる場所がない。泰阜村の障がい者は村外の障がい者施設や事業所へ行っているのが現状で、地域の中に障がい者の居場所がない。このような泰阜村の背景を踏まえ、子供や障がい者、地域住民の誰もが気軽に足を運びやすい開放された「カフェ」をつくり、地域住民と子供、障がい者との交流の場を作ることが必要と考えた。そこでこどもカフェを開き、地域の中に子供と障がい者の居場所をつくることがこの事業の目的である。

## 事　業　内　容

①こどもカフェ開催・・・月１回以上の開催（9/27、10/25、11/22、12/25、1/8、2/21、3/24、3/31）
②カフェ運営　・・・火、水、金、土曜日営業
③ランチ配達・・・カフェに来ていただくお客様が多く、実施せず。
④作業場の運営・・・高齢者施設レクレーションの下準備など
⑤カフェでイベントの開催　・・・アートフェス、泰阜親の会、エイサー三線教室、プログラミング教室、鹿革クラフト体験など

【こどもカフェの様子】

## 事　業　効　果

①カフェでは飲食だけでなく、様々なイベントや展示会、更にサークル活動や学習教室なども開催したことにより、多くの地域住民の利用があり、多世代にわたる交流の場となった。
②子ども食堂の開催、プログラミング教室、クラフト体験など、子供が興味を持つイベントを開催し、地域の子供たちがカフェを利用する機会が多くあった。子供たちが気楽に過ごせる場所となった。
③村内、近隣町村の障がい者がカフェの接客や作業場スペースで作業を行い、地域の人との交流の場となった。また、店内に近隣の障がい者施設の商品販売スペースを設け、商品陳列などを障がい者に一緒にしてもらい、障がい者の村内における社会参加の場の一つをつくれた。

【地域の障がい者による作業】

## 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

コロナ禍であり、こどもカフェやイベント、各教室の開催方法をその都度苦慮した。
今後は、地域住民の交流の場となることがカフェの目指す姿であるということを地域の人にもっと知ってもらい、気楽に利用してもらえるよう、イベントや展示会、学習教室やサークルなどの活動を継続していきたい。一方で、障がい者の社会参加の場であるカフェという位置づけを地域の人に更に理解してもらいたい。作業場の運営にも力を入れると共に、接客などカフェの仕事も障がい者と一緒にやっていきたい。

**【選定のポイント】**
コロナ禍にもかかわらず多くの地域住民がカフェを利用し、子どもや障がい者の居場所作りにつながっている。また、泰阜村のような農村部でも地域住民と子どもや障がい者を繋げるコミュニティスペースのニーズを確認できたため、今後近隣市町村にも同様の取組が広がっていくことが期待される。

| | |
|---|---|
| 団体名　特定非営利活動法人ラブリーズ（飯田市）<br>連絡先　カフェ みちばたのたんぽぽ<br>0260-26-2305<br>ホームページ　https://www.facebook.com/michibatanotanpopo | 事業タイプ　ソフト・ハード事業<br>事 業 費　１，４７５，２８６円<br>支援金額　１，１１２，０００円 |